



### 食文化

「日本料理は食べられますか」と今でもよく聞かれます。正直いって、日本料理が大好きです。日本へ来るたび、体重に気をつけないと、あっという間に太っていきます。8年前の岡山でのホームステイからイギリスに帰って、何か月ぶりに母と空港で再会したら「久しぶり!」「元気?」などのありきたりな挨拶を思っていたら、母は私を見て、「サム!太ったね!」と叫びました。ありがとう、お母さん。帰ってきてよかった...

少し太ったのに、その時から今でも、何でもかんでも食べるわけではありません。まだ好き嫌いがあります。例えばタコとイカは何回食べても、ゴムのような食感が私はちょっと嫌です。でも、食べてみて、食べられないことはありません。

ある時、岡山のホストファミリーが私をお寿司屋へ連れて行って、色々な食べたことのない寿司を食べに連べさせてくれました。お父さんが「美味しいものを食べさせてあげるよ!」と誇らしげに言いました。それまでに食べたものはとても美味しかったから、よりいいものと楽しみにしていました。寿司職人が私の前にお皿を出しました。魚の頭がポンと置いてありました。私はその頭を眺めました。ニコニコしているお父さんは私を眺めました。その死んでいる魚の頭も私を眺めていました。数年が経って、タイのほほと目が美味しいと少し分かるようになりましたが、イギリスでは、魚の頭は捨てる部分なのです...

友達はこの話を聞くと、「イギリスの料理で日本人が食べられないものがあるの?」と尋ねられますが、最近まではほとんどないと思っていました。やはり量が違いますが、材料として、日本人が「変

と思う食べ物が特になくはないと思込んでいました。しかし、私にとって当り前の食べ物に対して日本人の友達が「えーっ!これが食べれるの?」とびっくりしたものを発見しました。家で友達が夕食に誘った時、一つのお皿に野菜をたくさん並べました。一人ひとり自分の好きな野菜(トマト・きゅうり・にんじんなど)を自由に取って食べましたが、その日本人の友達はブロッコリーを取って、「ヘッ?生だ!」と言いました。イギリスでは、野菜の盛り合わせやサラダに生のブロッコリーを使うのはごく普通だから、友達がそんなに驚いたことが私を驚かせました!他の日本人が慣れていない例を挙げると、ブラッドソーセージというイギリスの独特の食べ物でしょう。普通のソーセージはお肉から作られていますが、この種類には血しか入っていません。イギリス人の中にも気持ち悪いと思う人が少なくありません。

料理は国境を越えるときよく変化していくものなのでしょう。イギリスのホットケーキはもともと朝ご飯の食べ物でしたが、日本ではおやつとして食べられています。また、フレンチ・トーストという食べ物は、フランス出身の友達が遊びに来たときに作ってあげましたが、「フランス人はこういうものを絶対食べないよ!」と言いました。そういえばフレンチ・フライはアメリカの食べ物であっても文字通りに解釈しますと「ん?フランス風の揚げ物?」になります。

食べ物は文化の特徴をみせる一面と考えられます。2国間はおろか、同じ国の中にも多種多様な材料や料理があります。イギリスの北部ではハギス(羊または子牛の内臓、脂、オートミール、玉ねぎのミンチを家畜の胃袋に詰めて茹でる食べ物)は人気があっても、南部の人にとっては考えられない食べ物です。他国、また母国の遠い地方の料理を食べるとその国、地方の文化が少し現われてくると思いますし、食べるもんじゃないと思っても、食べてみるとかえって気に入るかもしれませんので、ぜひ色々な国の料理を味わってください!



以前からの口からの内視鏡は検査時に、のどに麻酔はしてはいますが、1cm前後の太さがある内視鏡を飲み込むので、多くの人が咽頭反射(口を開けて、指をのどの奥に持つていくと「おえっ」となる現象)を起こしてしまいます。しかし経鼻内視鏡検査では、内視鏡が舌のつけ根を通らず、のどにも触れないので、口からの内視鏡検査に比べ、咽頭反射がほとんどおこりません。検査中も会話が可能です。質問をしたいときなど、医師と

**経鼻内視鏡のお知らせ**  
最近では、外径が6mmの細い内視鏡が登場し、「経鼻内視鏡検査」という鼻から挿入する方法で胃カメラが行える施設が増えてきています。当院でも現在は1日3名程度ですが経鼻内視鏡検査を行なえるようになりました。



鼻の手術を受けたことがある、鼻の病気で現在治療中である、よく鼻出血を起こすなどの場合や、二次検査目的などで来院し、病気の存在が強く疑われる場合、処置・治療を必要とする場合は、従来の口からの内視鏡が適しています。以前に経口内視鏡検査を受けてかなり苦痛であった方や、開口困難がある方は、経鼻内視鏡を考えてみてはいかがでしょうか。

内科 奥田和明

自由に話ができるので安心です。検査中の負担が軽いため、前投薬もほとんど不要で、また安全です。経鼻的挿入の為に鼻腔の麻酔は必要で、まれに鼻出血が起きますが、内視鏡を抜去して10分程度鼻を押さえれば止血できます。一方で一般の内視鏡と比較すると、送水、吸引の力がやや弱く、画質がやや劣り、また、行える処置も限られます。(胃液の吸引や組織採取などはおこなえますが、ポリープ切除や一部の止血処置などは難しい場合があります。処置・治療を必要とする緊急内視鏡や治療内視鏡には向きません。また

## 聴診器 市民病院だより

